

第4回超高精度メソスケール気象予測研究会 つづき

12:15-12:30	A forward step to new-era urban NWP:3D structure of the sea-breeze front head as revealed by super high-resolution mesoscale simulation 陳 桂興(東北大)
12:30-13:40	写真撮影・昼食
13:40-13:55	大規模山岳地域洪水土砂流出解析手法の開発 山敷庸亮(京都大防災研究所)
13:55-14:10	京を用いた超高解像度気象シミュレーション 大泉 伝(海洋研究開発機構)
14:10-14:25	Ensemble flood forecasting using transposition of NWP rainfall fields considering orographic rainfall Yu Wansik (京都大防災研究所)
14:25-14:40	アンサンブル洪水予測 小林健一郎(神戸大)
14:40-17:15	高精度領域大気モデルの開発とそれを用いた基礎研究 (座長:木村 富士男、海洋研究開発機構) (会議場)
14:40-15:10	基調講演:ビン法モデルによる現実ケースシミュレーション:先行研究とこれからの課題について(英語) 井口享道(メリーランド大学・米国航空宇宙局)
15:10-15:20	高精度領域大気モデルの開発とそれを用いた基礎研究の紹介 木村富士男(海洋研究開発機構)
15:20-15:35	超高解像度シミュレーションによる竜巻の詳細構造の解析 益子 渉(気象研究所)
15:35-15:45	コーヒーブレイク (5階ロビー)
15:45-16:00	多次元ビン法NHMの開発 橋本明弘(気象研究所)
16:00-16:15	ビン法雲微物理学モデルの結果を用いたバルク法の検証 中村晃三(海洋研究開発機構)
16:15-16:30	地域気候モデルの解像度依存性について 野坂真也(気象研究所)
16:30-16:45	下層水蒸気の蓄積過程における水平解像度依存性 加藤輝之(気象研究所)
16:45-17:00	Terra Incognita となる解像度のための Mellor-Yamada モデルの拡張 伊藤純至(東京大大気海洋研究所)
17:00-17:15	全球非静力学モデルにおける深い湿潤対流の解像度依存性 宮本佳明(計算科学研究所)
17:15-17:45	総合討論 (会議場)